

## 困難を乗り越える力

～「未来のための思い出：ココロかさなるプロジェクト」で集まった声の分析から～

Strength to get over difficulties: From the analysis of the voices collected by “Kokoro Kasanaru Project”

村本邦子・団士郎・中村正・磯井知子・岩澤由真

川福理沙・地下昌里・前阪千賀子・清武愛流・森希理恵・奥野景子

MURAMOTO Kuniko, DAN Shiro, NAKAMURA Tadashi, ISOI Tomoko, IWASAWA Yuma,

KAWAFUKU Risa, JIGE Mari, MAESAKA Chikako, KIYOTAKE Ailu, MORI Kirie, OKUNO Keiko

立命館大学

Ritsumeikan University

Key words: 困難を乗り越える力、「木陰の物語」、心の防災

### 目的

十年間東北4県を巡る「東日本・家族応援プロジェクト」のスピノフ企画として、心の防災をテーマに、2015年6月27日(土)～7月5日(日)、京都の駅構内で「未来のための思い出：ココロかさなるプロジェクト」を開催した。プロジェクトの中心は団士郎による漫画「木陰の物語」であるが、これは見る人に様々な物語を喚起させ、ゆるやかな連帯の感覚や、人生に起こる様々な困難を乗り越える心構えのようなものを生み出していることを実感してきた。今回は意図的に困難を乗り越える力に焦点をあてた漫画展の設定を行い、インタビューによってその力を特定すると同時に強化しようとするものである。

### 方法

「木陰の物語」の展示に合わせて、3つの質問(①漫画展の感想を聞かせてください ②あなたの人生に起こった思いもかけないことや困難を乗り越えたコツを教えてください ③現在、その渦中にある人へのメッセージやアドバイスをお願いします)からなる街頭インタビューを実施し、計250名の声を集めた。本研究は、②と③への応答の逐語録をもとに質的分析を行うことで、人々が困難を乗り越える力をどのようなものとして捉えているのかを明らかにする。

分析にあたっては、インタビューの逐語録をもとに、意味内容を最小限の単位で切片化し、研究者8名で検討を重ねながら小・中・大グループへとまとめて概念生成を行い、それぞれの関係を図示した。

### 結果と考察

ここでは紙面の関係上、図を省略するが、困難を乗り越えたコツは、縦軸に「解決を図る」と「あるがままに受け入れる」、横軸に「他者とのつながり」と「自分の人生」という方向を想定し、その座標軸の上に6つのカテゴリー ①誰かの助けを借りる ②つながりを力に ③

乗り越えるのは自分だ ④視点を変えてみる ⑤ジタバタしない ⑥セラヴィ、それが人生さ が置かれた。困難の最中にある人へのアドバイスは、①ひとりじゃないよ ②乗り越えるのはあなただよ ③視野を広げよう ④セラヴィ、それが人生さ ⑤アドバイスなんてできない の5つのカテゴリーに分けられた。

総合すると、困難を乗り越える力は、①他者に頼り、つながりを力にする ②覚悟を決めて自分の人生を引き受ける ③運命をありのままに受け入れる(人生観)から成立していると考えられた。困難に対して、たとえば、①「ひとりじゃないよ、誰かの力を借りよう」「聞いてもらっただけで楽になるよ」「見回してみれば、さまざまな社会資源がある」「素直に助けを求めよう」「あなたを大切に思っている人がいることを忘れないで」 ②「最後は自分」「挑戦してみよう」「できることをコツコツと」「視野を広げよう」「発想の転換を」「逃げるのもあり」 ③「やまない雨はない」「流れのままに」「人生に困難はつきもの」「生かされていることに感謝」「いつかはよい思い出に」などのような助言があり得る。本プロジェクトでは、他者へ向けて助言を語ることで、今後、自身に起こる困難への対処法を構成することをも狙っていた(心の防災)。

漫画の感想を尋ねた最初の質問項目の分析からは、「木陰の物語」の鑑賞者が多様な物語を読み取り、身体感覚を伴う感情体験や誘発された個人誌と省察を経て、個別性から一般性を往還し、それぞれの着地点に到達していたが(村本他、2015)、今回の結果は、喚起された物語の着地点をインタビュアーと共になぞったものと考えられる。語り出された力の構成が「木陰の物語」による影響とどのように対応しているのかについても、今後、さらに分析していきたい。

### 参考

村本邦子・齋藤清二・清武愛流・前阪千賀子(2015)『団士郎家族漫画展』が見る人の心に喚起するもの』日本質的心理学会第12回大会報告